

○ボランティアさん募集に関するお知らせ

ReRoots では、これまで若林区の復興のため農地の復旧や農作業支援と一緒に取り組んでくださるボランティアさんを募集してきましたが、復旧のめどが立ってきたためボランティア募集は10月から水・木・金曜日はお休みとさせていただきます。詳しくはHPをご覧ください。今まで活動に参加して下さった方、ありがとうございます。まだ終了したわけではありませんのでこれからもよろしくお願いします。

○ボランティアに参加するには？

次の〔持ち物〕、〔服装〕を準備して頂き直接ボランティアハウスまでお越しください。

〔持ち物〕

長靴、軍手、ゴム手袋(厚手のもの)、昼食、飲料、ボランティア保険の加入が確認できるもの

※事前に「ボランティア保険 天災型」(宮城県の場合 670 円)に必ずご加入ください。

お近くの社会福祉協議会で簡単に加入できます。

〔服装〕

汚れてもいい動きやすい服装でお越しください。

簡単な着替えスペースも用意しております。



ReRoots メール ReRoots HP

詳しくはHPをご覧ください
かメールまたは電話にて
お問い合わせください

ボランティアハウスは2013年1月より下記のように移転しています

前住所
〒984-0032
宮城県仙台市若林区荒井字遠藤 43-1



現住所
〒984-0033
宮城県仙台市若林区荒井字今泉 59-3

新米食べた
い…。

一般社団法人ReRoots
TEL/FAX: 022-762-8211
メール: reroots311@yahoo.co.jp
HP: <http://reroos.nomaki.jp/>
ブログ: <http://reroots.blog.shinobi.jp/>
Twitter: @ReRoots311



2013年9月18日

仙台市若林区 震災後初の作付 収穫間近

2013年8月10日 荒浜ひまわり畑

ReRoots ~「復旧から復興、そして地域おこしへ」~

若林区の被災地域の住民にとって農業は生活の基盤であり、農家でない方は家庭菜園などで自家作物を栽培するのが一般的でした。そこでReRootsでは「復旧」として家屋の泥だし・畑のガレキ撤去などを進め、元の生活を取り戻せるように・生活の一部である農業が再開できるように支援をしてきました。しかし「復旧」作業は、生活のゼロ地点に立つことに過ぎません。生活再建に必要とされることは「復興」作業です。

たとえば・・・

- ・新規就農者を受け入れるためのファームステイ
 - ・大学と連携した農業インターンによる人材確保
 - ・若林区の農業・食育・防災・自然環境などを活かした小中高生の研修受け入れ
 - ・被災された農家さんが育てた野菜の販売
 - ・若林区野菜の販路拡大
- など。



ReRoots は若林区の元々の魅力、農家の特色や技術を活かすことで、地域の魅力を引きだし伝えていきます。

そしてコンセプトを大切に、「復興」を経て「地域おこし」へと向かっていきます。

お知らせ

ボランティアの皆さんのおかげで、復旧の見通しが立ちました。ReRoots では、年内のうちに復旧活動を収束させ、復興活動へと移行することを考えております。10月からは毎週水・木・金曜日をお休みとさせていただきます。

田植えプロジェクト

・田植えプロジェクトとは？

仙台市若林区の一部の田んぼでは津波被災による塩害等で昨年までは稲の作付をすることができませんでした。作付が再び始まった今年の春、田んぼでの作業や農家の方々と一般市民の方々・ご家族との交流を通し、若林区の農業の魅力を体感してほしいという目的からはじまったのがこの田植えプロジェクトです。2013年5月から10月現在にかけて一般参加者の皆さんとともに行いました。

9月下旬に行われた第3回には、手で稲を刈る作業やもみ殻を袋に詰めて運ぶ作業などを行いました。どちらも大変な作業ではありましたが、参加者の方や農家さんと和気藹々とした雰囲気、休憩中には農家さん手作りのお餅がふるまわれました。またお話の中には農業のお話や、無農薬栽培のやりがい、たいへんさなどの話などもあり、参加者の方には農業についてより深く知っていただけたのではないのでしょうか。



若林区復興支援ショップ

りるまあと

仙台朝市で毎週土曜日、9時から16時まで営業中！

りるまあとでは「復旧の終わった畑では立派に野菜ができていくという」若林区復興の様子や農家さんの努力、さらに若林区の魅力を ReRoots のスタッフが発信し、農家さんの生活再建を支えています。店頭には有機肥料・減農薬などのこだわりをもって作られたおいしい野菜たちが、季節を感じさせながら並びます。

「日にちが経っても鮮度保ったままだし、値段以上の価値があったよ。」

そんな感想も寄せらせてきます。

このように若林区復興支援ショップりるまあとは、「生産者の方々と、消費者の方々と、地域をむすぶ場」でありたいと思っています。

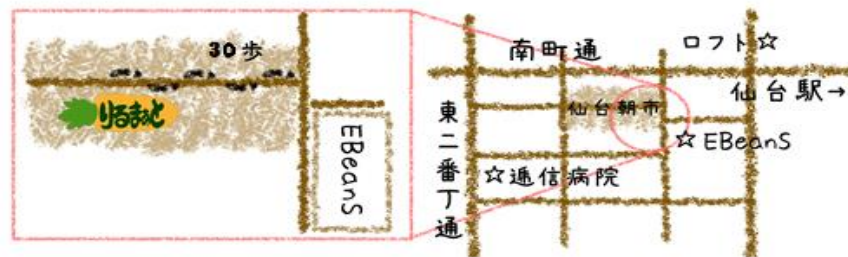
若林区の「今」を、聞いて感じて食べてみませんか？

～新発売！～

震災後に作付が出来なくなった田んぼで、今年からは作付ができるようになりました。

そしてこの秋ようやく収穫出来るまでになりました。田植えプロジェクトにて協力してくださった農家のおひとり、笠松さんのお米(ひとめぼれ)をりるまあとと通販にて販売しております。ぜひどうぞ！

★りるまあとブログ 笠松さんのお米 通販 HP <http://kasamatsu.konjiki.jp>



『ひまわりプロジェクト』

津波で失われた景観を回復する取り組みとして、昨年に引き続きひまわりプロジェクトを行いました。今年は若林区の二木地区、荒浜地区の約六反の畑に、ひまわりの花が彩りを与えてくれました。

ひまわりの種は福島県で障害者の方々と支援している「NPO 法人シャローム」さんから提供していただき、若林区で育てられ、収穫された後は再びシャロームさんの元へと戻されます。そして搾油・パッケージングを経て、食用のひまわりオイルである「みんなの手」に加工されます。

今年8月10日・11日に開催したひまわり祭りには、荒浜地域にお住まいの方も含め、多くの方々にお越しいただきました。おかげさまで2日間の参加者合計は300人に参加でした。

お祭り中には荒浜に古くから伝わる豆腐を使用した精進料理「に」を200食限定で深沼の奥様が作り、行列ができるほどの賑わいを見せました。鶴亀会や七色会などの仮設住宅やみなし仮設住宅に避難している方々が作った復興グッズの販売も行われました。

そのほかひまわりの写真コンテスト&写生大会を開催し、力が入った作品が多く集まりました。どの作品も復興の様子が伝わってくる本当にすてきな作品でした！また、若林区中央市民センターでは写生大会の絵の展示も行いました。

お祭りでこのプロジェクトが終わるわけではなく、今後もりるまあとにてひまわりオイル「みんなの手」を販売することやまた来年もこのプロジェクトは継続していきます。このプロジェクトをきっかけに多くの方に若林区に興味を持っていただけたら嬉しいです。



8月11日ひまわり祭り 写生会の様子とひまわりオイル

さつまいもプロジェクト

・さつまいもプロジェクトとは？

農業の楽しさを知ってもらうことや津波被災地域への人の呼び込むこと、地域の皆さんとの交流を行うことを目的として、ReRootsファームにて今年から始まりました。地元の農家のご指導の下、ReRoots スタッフと、ご応募頂いた参加者がサツマイモの植え付けや草取り、虫取り、つる返しなどの生育管理、収穫を行いました。

8月25日に行われた第2回は6名の方に参加していただき、草取り、小松菜の畝づくり・種まきなどを行いました。



ReRoots ファームとは？

震災を機に使われなくなった遊休地の利用や、地域の方々とのコミュニケーション作りを目的としています。2011年の10月から今まで、周りの農家の方々から教えていただきながら、野菜を栽培してきました。

現在はブロッコリーや白菜、小松菜などを栽培しています。水やりや雑草抜きなど、スタッフみんなで行い、農作業の大変さ、楽しさ、野菜のおいしさなどを実感しています。